

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価				10094	Z世代地域活躍推進事業					市民部	ダイバーシティ推進課
		中事業番号		1987								所属コード	150500
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X推進	手段	意図（目的）	
大綱（取組）	Ⅳ「誰もが地域で輝く未来」	17.15 17.17	○	5-2							SDGs等の社会課題への意識が高く、デジタルネイティブな地域で活動するZ世代を含む若者の活躍を促進する。	・新しい感性をもった若者がまちづくりに参画する。 ・若者の人材育成と人脈形成を図る。	
施策	1 市民生活に活力があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち												

事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
目まぐるしく変容する社会に対応するため、デジタルネイティブで社会問題に関心が高いとされるZ世代を含む若者の斬新な発想や行動力が求められている。		既存事業である高校生による「わかものボーダーレスプロジェクト」等を通じて、これからの時代を担う若者の新たな発想や価値観を本市の施策に反映してきた。 また、民間企業等においてもZ世代を含む若者の活躍の場が広がる契機となるよう、Z世代の活躍に関わっている個人や団体を訪問し、双方の取り組み状況を共有するなど、Z世代コミュニティの形成を進めている。		デジタル改革関連法案によるシステム共通化や気候変動対応など広域化する課題に対応できる若手人材育成は今後も引き続き必要とされる。また、Z世代と地域団体等が連携することで、各々の不足するものを補い合い、各種取り組みの持続性の確保と磨き上げが求められる。		多様化する住民ニーズを理解し地域活動を支援するため、デジタル社会や気候変動など最新の社会情勢を的確に把握し新たな感覚も交えて対応することが求められる。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	こおりやま広域圏各市町村住民	人						611,517								
活動指標①	わかものボーダーレスプロジェクト参加者数（～R6度）	人		9		10	10	8								
活動指標②	マッチング報告会発表者（団体）数	人・団体					5	5	5		5		5	5		
活動指標③	Z世代活動意欲調査数（R7度～）	回							2		2		2	2		
成果指標①	参加者の満足度調査結果（5段階）	段階						4	4.8	4	4		4	4		
成果指標②	各報告会参加者数	人					100	75	50		50		50	50		
成果指標③	意欲調査回答数（R7度～）	件							50		50		50	50		
単位コスト（総コストから算出）	事業参加者1人あたりのコスト	千円		175				620	921		433		433	433		
単位コスト（所要一般財源から算出）	事業参加者1人あたりのコスト	千円		175				620	921		419		419	419		
事業費		千円		1,578				1,721	1,690		1,578		1,578	1,578		
人件費		千円						6,341	2,917		2,917		2,917	2,917		
歳出計（総事業費）		千円		1,578		0		8,062	4,607		4,495		4,495	4,495		
国・県支出金		千円		0				0	0		0		0	0		
市債		千円		0				0	0		0		0	0		
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		0				0	0		0		0	0		
その他		千円		0				0	0		0		0	0		
一般財源等		千円		1,578		0		8,062	4,607		4,495		4,495	4,495		
歳入計		千円		1,578		0		8,062	4,607		4,495		4,495	4,495		
実計区分		評価結果					新規		拡充							

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
【活動指標①】 わかものボーダーレスプロジェクトへの参加者数について、広域圏に立地する高等学校から参加者を募集したところ6つの高校から8名の高校生が参加。計画値は前年度実績を踏まえて10名程度を想定していたが若干ではあるが下回る結果となった。 【活動指標②】 マッチング報告会発表者数は、Z世代団体等への積極的なアプローチにより5名が参加し、計画値通りの参加者数となった。		【成果指標①】 わかものボーダーレスプロジェクト発表者の満足度調査の結果、同世代である発表者との交流のほか取材を通して得られた経験等、発表者自身のスキルアップにつながったとの意見があった。また、マッチング報告会参加者からは、発表者や地元企業との交流できたとの意見があるなど、両事業ともに高評価を得ることができた。 【成果指標②】 各報告会の参加者数については、当初の計画値よりも25名程度減少したが、特にマッチング報告会においては、Z世代団体の発表内容に興味を示した報告会参加者（地域団体）が報告会以降においても交流が図られるなど、本事業の目的である「若者世代と地域団体のマッチング」を達成することができたことから一定の成果を得ることができた。		【事業費】 新規事業であるため分析不可 【人件費】 新規事業であるため分析不可	

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		4
3 効率性	R6新規	
4 活動指標（活動達成度）		3
5 成果指標（目的達成度）		3

(2) 事業継続性評価		
代替事業（有）		
ニーズ（小）		ニーズ（大）

拡充	一次評価コメント
わかものボーダーレスプロジェクトは、若者による地域や社会の課題解決に向けた政策提言など、若者のまちづくりに参画するための活動支援を行ってきた。一方で、市全体としては、都市政策課の「こおりやま公民協業エリアプラットフォーム公共空間等社会実験」や未来創造課の「学校探求授業」への伴走支援等、本事業の目的と類似する事業の展開が図られていることから、本事業の目的である「若者のキャリア教育や行政への参画機会拡充、新しい発想による政策提言の実現」については、一定の成果が得られたものと考えているため、本年度で終了とする。 マッチング報告会について、本年度は広域圏のまちづくりに関わるZ世代の活動内容を地域団体等が知る機会を提供するために開催したが、次年度以降については、Z世代団体と各地域団体等が世代や業種を超えたつながりや相互理解を深めよりよい関係性を構築することを主目的とした世代間交流会を開催するなど、Z世代団体等の活動を支援するための更なる環境整備に努める必要がある。	

5レシ	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
			○	○	○

気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協賛
	○	○

4 二次評価

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		2
2 公平性		4
3 効率性	R6新規	
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		4

(2) 事業継続性評価		
代替事業（有）		
ニーズ（小）		ニーズ（大）

改善	二次評価コメント
マッチング報告会発表者（団体）数については計画どおりの実績となり、「若者世代と地域団体のマッチング」について一定の成果を得られた。しかしながら、各種報告会への参加者数については計画に達しておらず、活動に対する周知や広報活動について検討する必要がある。 「若者のキャリア教育や行政への参画機会拡充、新しい発想による政策提言の実現」という事業目的について一定の成果が得られたため、「わかものボーダーレスプロジェクト」は、令和6年度をもって完了となる。したがって、今後は、Z世代の活動を地域団体と連携させ、世代間交流や異文化交流等、多様な主体との連携機会を拡充することで、新たな段階に適した事業を具体的に検討していく必要があるため、活動の見直しが必要である。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画